

# KGA

'95夏季号  
1995年8月1日発行



## 目次

KGAレポート	
コースレート査定随伴記	1
平成7年度 関東グランドシニアゴルフ選手権競技	4
平成7年度 関東女子ゴルフ選手権競技	8
平成7年度 関東アマチュアゴルフ選手権競技	12
平成7年度 関東俱楽部対抗決勝競技	14
分科委員会	22
月例競技成績表・お知らせ	26
表紙photo 袖ヶ浦カントリークラブ(撮影・片山晴美/KGA広報委員)	

 関東ゴルフ連盟

KGAレポート

## コースレート査定随伴記

文・杉山通敬 (KGA広報委員)

KGAでは毎年、3月末～11月まで約30コースの査定を行なっている。それをこなしているのが17名の委員——いずれ劣らぬゴルフの名手だが、それだけではつまらない。自分の本業をお休みにして、1都10県のゴルフ場に出向くとなると、生半可な気持では長続きしない。ゴルフが好きで、知識と経験が豊富で、そしてなによりもボランティアであること——その活動をレポートする。

### 主観を客觀化する作業

4月27日晴。風は微風と強風の中間、さしづめ弱風というところか。群馬県安中市郊外のプレスCCに参集したコースレート委員は新井安寿委員長、北村昭夫副委員長以下、生田憲一、市川一夫、大久保蓄、内藤正幸、平本桂樹、前川武英、松岡和歳の各氏。

総勢9名が3人1組のチームを編成し、コースレート査定のためのラウンドをスタートしたのは9時。第1組がホールアウトしたのは12時30分であった。

査定はあくまでもスタンダード・スクラッチプレーヤーを対象としたものなので、私のような万年ダッファーには小学生が大学の講義を受けるような、いかんともし難い実力差を感じたが、小学生にもそれなりのリポートのやりようがあろうかと、聴講生よろしく第1組に編入させてもらった。各チームの編成は第1組=新井、北村、平本(杉山)、第2組=市川、内藤、松岡。第3組=生田、大久保、前川。

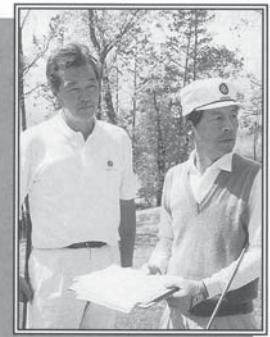
各委員にはスタート前に〈コースレート難易度査定表〉が配布され、各ホール毎に点数を記入、その数値をもとにホールアウト後、合議し後日に委員会を開いて、正式な査定が決定される。評価項目は以下の10項。

- ①地形
- ②フェアウェイ(バー3は除く)
- ③ラフでのリカバリー
- ④OB
- ⑤ウォーター・ハザード

⑥樹木 ⑦バンカー ⑧グリーン目標 ⑨グリーン状況 ⑩心理的影響。

評価は5点法で査定され、標準点は3.25に置いているということだった。これはいわば各委員の印象度を数値で表示したものと言ってよい。たとえば私のような者には、5点をつけたくなるような〈心理的影響〉も、スタンダード・スクラッチ・プレーヤーの評価は3点ぐらいにしかならないのである。こうしたことは10項目すべてにわたって言えることで、そこにハンディキャップの根拠となるコースレート査定の意義があるのであろう。後述するが、ラウンド後に持ち寄った〈査定表〉をみると、3チームの評価点に大きなバラつきはなかった。見る人が見れば評価は自ずと正鶴を射た数値に収斂されるものなのであろう。そのことについて新井委員長はこんなふうに言っていた。

「コースレート委員は役目上、たくさんのコースをラウンドしているので、比較検討するデータが頭の中にあ



ティグラウンドでまずホール全体を観察  
(右・新井委員長 左・平本委員)

り、それとつけ合せながら釣り合いの取れた見方をする。経験にもとづいた見方をしていくと、大きな狂いは出ないものです」

### ■新査定方式■

以上の〈コースレート難易度査定表〉による評価とは別に、当然のことながら距離も査定対象になる。これは絶対値が各ホール毎に表示されているから、いわば客観的な材料と言ってよいのだが、実際にはそうではない。同じ400ヤードでも打上げと打下しでは、ブレーディングディスタンスは、前者のほうが長く、後者は短くなるからだ。したがって、ここにも各プレーヤーの主観が作用されるものと思われるのだが、これまたラウンド後の各委員の“主観”にバラつきはなかった。

プレスCCの全長（ブラックティ、すなわちチャンピオンティ）は7,125ヤード（バーは72）である。しかし、各委員はこの絶対値より、230ないし240ヤードはブレーディングディスタンスが短いという見方をしていた。各ホールのティが一段と高い所にあり、打下しのホールが多いからだ。さらにセカンドショット以降でも打上げのグリーンが少ない。そんなことで各委員の主観、もしくは実感による全長は7,125より230引いた〈6,895ヤード〉と評価された。私のような者には、絶対値より実感距離のほうが長く感じられたホールが多いのだが、言うまでもなく、それは“飛ばない”からである。

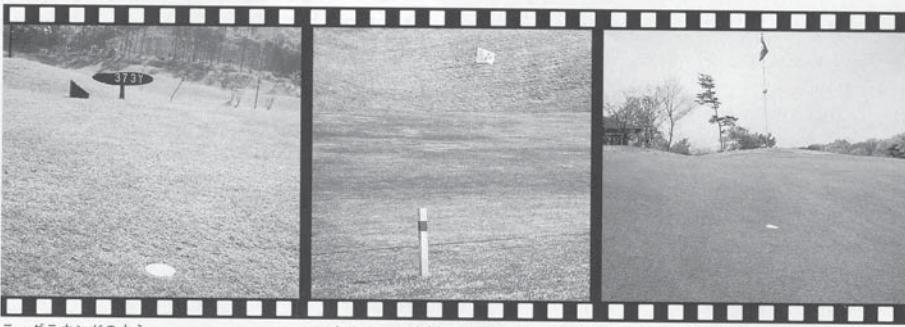
当日は査定の目安とし、いわゆるIP点（インターポイント・ティから245ヤード地点のフェアウェ

イ中央）に目印の旗が立てられていた。各委員は自分の飛距離を把握しているので、それとIP点と比較しながらブレーディングディスタンスの距離を評価する。客観性をもった主観と言ってよい。これまた、経験がものを言っているのだ。

自分の飛距離すらも把握しきれず、ショット毎にバラつきがあるようでは、IP点も路傍の標識にしかすぎず、主観の正当性を主張する根拠など、さらさらないのである。コースレートの客観性を改めて思い知られた。

各委員の〈客観性をもった主観〉により、プレスCCのブレーディングディスタンスは〈6,883ヤード〉ということになった。各ホールのバーは距離によって割り出され、それを合計したものがコースのバーになっていることは周知のとおりである（バーの半分はパット数にあてられているが、コースレート査定上では18ホールで38.25になっている。このことについては後述する）。

以下のことはゴルフ史上の経験からの帰結だと思われるが、英國ゴルフ協会であるR&Aは18ホールで費やす、スクランチプレーヤーの各ショットの平均距離を〈200ヤード〉と想定した。ドライバーショットから、100ヤードにみたないショットまで、平均200ヤード飛ばせばパレギュレーションにかなった飛距離である、と見なしたのである。その根拠はどこにあるのか、寡聞にして知らないが、正確に200ヤード平均飛ばすことが出来ればスタンダード・スクランチプレーヤーになれることを、ゴルフの歴史が示唆しているのかもしれない。



ティグラウンドの中心

IP（245ヤード地点）の白旗

グリーンの中心に赤旗

というわけで〈6,883÷200=34.415〉。すなわちプレスCCのショット数に割り当てられたレート上の数値は34.415になった。ただしこれには先に挙げた10項目にわたる評価は加味されていない。つまり5点法による各ホールの難易度が高ければその数値を加え、低ければ減じる。ラウンドしながら私もその作業を見聞させてもらったが、1から10までの項目を3人の委員が遂次採点していくのである。

ホール全体の地形がショットにどう影響するか。一方が土手で一方が谷、両側が土手、両側が谷といった地形でそれぞれの難易度に差がつく。フェアウェイの巾と起伏もホールによって異なるから、これもその都度評価する。そうやって3人の委員は合議し合いながらチームとしての採点をする。その結果、3チームの難易度を平均すると〈0.132〉のプラス点になった。

以下のことをまとめて一つの式にするとつぎのように表わされる。

$$(6,883 \div 200) + 38.25 + 0.132 = 72.7983$$

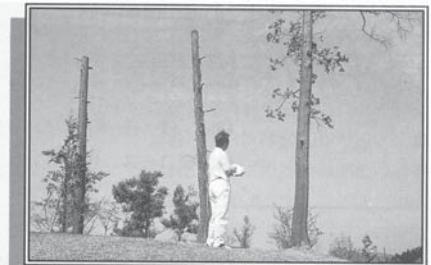
後日、コースレート委員会が開かれ、合議の結果、プレスCCのバックティからのコースレートは72.8（小数点2桁以下は四捨五入）と決定された。すでに述べたように〈6,883〉はブレーディングディスタンス。〈200〉はショットの平均距離。〈38.25〉はパット数。〈0.132〉は難易度である。

ここで疑問に思われるるのはパット数である。1ホール平均〈2〉、18ホールで〈36〉がパット数に割り当てられているものと、私は認識していたのだが、そうではないのだ。2パット平均より2.5、つまり18ホールで2回ないし3回は3パットをするものとして、許容されているのだ。グリーンの難しいコースが増えてきたからなのであろう。

### ■ゴルフ界の急務■

従前のコースレートは主として距離によって査定されていた。現在の方式を採用するようになったのは3年前からである。

現在（平成7年5月末）、KGA加盟倶楽部は456。このうち450倶楽部がすでにコースレート査定をすませているのだが、実に400倶楽部以上が従前の方で査定されたものである。



難易度のチェック 左ドッグのマウンド上の枯木 戰略的にはポイントなる樹木だった

ハンディキャップは全てのゴルファーを友人として結びつける接着剤、あるいは融和剤のようなものであろうが、そのハンディキャップ査定の根拠となるのがコースレートである。KGA加盟倶楽部はもとより、全国、強いては世界各国の倶楽部が共通のレーティングをすることによって、ハンディキャップもまた世界共通のものとなり、友人の輪を広げることになる。

そうした見地から、新しい査定方式による再査定を進めていく必要がある。今回のリポートもその必要性に鑑みて、いく分なりとも参考になればと思い、企画された。委員のお伴をして感じたことは、いかにして〈主観を客観化〉することに努めているか、ということだった。そして公正かつ適正なレーティングをするか、であった。

参考までにつけ加えればKGAに収める査定料は加盟倶楽部の新査定が20万円、同再査定が10万円、加盟申請中倶楽部30万円、未加盟倶楽部50万円である。これ以外に収める費用はゼロである。委員はボランティア（5000円の交通費がKGAから支給されるが、ガソリン代と高速道路料金を加算すれば赤字）である。かつては査定に“手ごろ”を加えてもらうつもりがあったのか、倶楽部によつては常識をこえた饗応接待したがるところもあったそうだが、その点に関しては昔も今もあらかじめKGAのほうでそのようなことはしないよう請願、もちろん委員もこれをもって快としている。

全国共通の尺度をもった土俵（ハンディキャップ）をつくるために、新方式による査定も進めていくことは日本のゴルフ界の急務と言つてよい。

## 平成7年度 関東グランドシニアゴルフ選手権競技

●開催日 平成7年5月8日(月)

●開催コース 相模カンツリー倶楽部 6,015ヤード パー72

### 技術はもちろん飛距離も大巾アップ

文・塙田 正 (KGA広報委員)

写真・舟橋一芳 (KGA広報委員)



優勝は藤 萬二さん(左 古賀副理事長)

#### なんと半数近くが200ヤードを突破

ここ数年のあいだに日本のグランドシニアのレベルが向上し、70台のスコアをマークする選手がどんどん出てきて、若いアマチュア選手もびっくりする好記録ラッシュとなっているが、その背景としてグランドシニアらしいグリーン周辺や、パッティングの技術の冴え、あるいは70歳以上とは思えない素晴らしい飛距離アップがあるからではないかと噂かれている。

筆者はそれら二つのポイントを実証すべく、当日前、まず11番ホール(387ヤード、パー4)のフェ

アウェー、200ヤード地点に陣取って、46選手を対象に飛距離についてのデータを集めることにした。このホールの200ヤード地点というのは、倶楽部部の関係者によると、右側に3コ並ぶバンカーのうちの2コ目の中心部がその距離に当たる。その位置に立ち、あらかじめ歩測をしていた10ヤード刻みの目印を基準にして測定してみた。

その結果を見ると、200ヤードのボーダーラインを突破したものが20名、それに達しなかったものが26名で、約43パーセントが200ヤード線を越えたことになる。

年齢を問わず、一般アマチュアのあいだでは、ロング・ヒッターの標準を220ヤードあたりに置い



▲▼スコアボード前は、大にぎわい



ているようだが、この試合で220ヤードをクリアした選手は実に7名にもおよんでいる。ちなみに最長飛距離は235ヤードで、2人の選手がこれをマークしている。一口に235ヤードというが、実際にその地点からティー・グラウンドを振り返ってみると、その距離が並々ならぬものであることがよくわかる。

結果的に「最近のグランドシニアの飛距離が飛躍的にアップした」という定説を実証した形になったが、技術面の進歩、用具の改良など、これからグランドシニアの傾向としては、さらに飛距離アップの一途をたどることが予測される。

#### てこずる14番でのアプローチとバット

一方、スコアをマークアップするカギは「アプローチとパッティングにあり」といわれているが、そのアプローチとパッティングについてはどうか。

これも相模CCではトリッキーな設計といわれている14番ホール(297ヤード、パー4)のグリーン・サイドに待機して取材することにした。

14番グリーンは幅約18ヤード、奥行き約27ヤードの縦長の卵型の形をしていて、中央に2ヤードほどのくぼんだ溝が通っている。ピンの位置は溝の手前の中央に立っていて、オンさせるのも難しいし、ボールの乗った位置によってはパッティングも非常にやっかいになる。

この難かしいグリーンまわりとグリーン上のストロークを測定して、いかにグランドシニアらしく、選手たちが好スコアをマークするかに焦点をしづってみたが、結果的には老練なグランドシニアといえども、この特徴のあるグリーンとその周辺では、かなりてこずっている様子がうかがえる。

測定対象は40名だが、ここで2オン1パットのバーディをとった人は2名(5パーセント)、2オン2パット13名(32.5パーセント)、2オン3パット1名(2.5パーセント)、3オン1パット2名(5パーセント)、3オン2パット15名(約37.5パーセント)、3オン3パット4名(10パーセント)、以下4オンの人が3名で1パット1名、2パット2名となっている。

以上のデータからグランドシニアの素晴らしいアプローチやパッティング能力をもってしても、この距離の短いパー4のホールがいかに難関であったかがわかる。

しかし、考え方によっては、ベテラン揃いのグランドシニアだったからこそ、33名(82.5パーセント)のプレーヤーがパー以下かボギーで上がることができたといえなくもない。飛距離のアップとともにグランドシニアの得意技であるアプローチ・ショットとパッティングにさらに磨きをかけることで、この選手権がいっそうレベルの高い競技に移行していくのは確実と思える。



さすがのベテランも泣かされた14番グリーン

### 望まれるJGAハンディの完全実施

最後にちょっと気になったことだが、関東グランドシニア選手権の出場資格の一つに「JGAハンディキャップ15までの者」という一項があるが、当日のプレーを見て、この資格に該当しているかどうか、首をかしげたくなる点が見られたことがある。もちろん、当日の体調や技術面での低調期

にあった人もいたはずで、一概にハンディキャップ云々とはいいがたいが、しかし一方では公平なハンディキャップ管理の下でプレーし、実力をもちながら15の資格条件に達せず、この競技に参

加できないプレーヤーがいるという点も考慮しなくてはならない。

このようなアンバランスな点を補うためにも、J-Sys (KGAが開発したパソコンによるハンディキャップ査定) 等で管理された公平なハンディキャップを望む声が高い。当然、統一されたハンディキャップシステムで行なえば、こうした問題も解決されるわけで、さらに健全に発達する“促進剤”にもなるはずである。

### 平成7年度 関東グランドシニアゴルフ選手権競技成績表

エントリー152名 出場者145名

順位	氏 名	俱楽部	アウト	イン	合計
1	藤 真二	一の宮	37	38	75
2	岡野 幸男	日 高	38	38	76
3	倉田 金造	常 陽	39	39	78
3	鈴木 勘三	青 梅	40	38	78
3	成宮 秋良	横 浜	38	40	78
6	大竹 栄一	武 蔵	40	39	79
6	木村 良雄	我 孫子	38	41	79
8	横田 茂男	武 蔵	41	39	80
8	永井 雅夫	東京国際	39	41	80
8	木元 栄次	蘿 之 台	40	40	80
8	山口 梅吉	横 浜	41	39	80
8	小林 広水	赤城国際	40	40	80
13	松井 一彦	立川国際	42	39	81
13	芝入 俊雄	鈴 ケ 岡	41	40	81
13	本多 実	蘿 之 台	44	37	81
16	山口 重次	常 陽	41	41	82
16	前田礼一郎	我 孫子	43	39	82
16	井上 刚彦	相 模	38	44	82
16	押谷 七兵衛	袖 ケ 浦	43	39	82
16	清水 武男	水 戸	41	41	82
16	大内文男	伊東カントリー	38	44	82
16	水谷 敏	桜 ケ 丘	38	44	82

順位	氏 名	俱楽部	アウト	イン	合計
23	鈴木 政伊	相 模	41	42	83
23	小林 寿明	赤城国際	41	42	83
23	曾根順之助	東名厚木	37	46	83
23	桂川 鉄男	東京国際	43	40	83
23	平山 信一	青 梅	41	42	83
23	杉山四郎	武 蔵	43	40	83
23	宮田 貞之	船 橋	40	43	83
30	柳引 大吉	狹 穗 山	41	43	84
30	井上 朗	拂 ケ 岡	43	41	84
30	大森 利朗	平塚富士見	39	45	84
30	小宮 五郎	蘿 之 台	43	41	84
30	鈴木 義平	船 橋	40	44	84
30	大倉 京斗	我 孫子	40	44	84
36	茅野 実平	謙 訪 湖	45	40	85
36	篠原喜治	武 蔵	45	40	85
36	市川 博通	狹 穗 山	40	45	85
36	田中 満司	武 蔵	39	46	85
40	森川 幸平	皆 川 城	43	43	86
40	浜野 賢	レインボ-	43	43	86
40	石橋 義夫	東 京	42	44	86
40	小川 忠雄	武 蔵	42	44	86
40	市川金次郎	美 里	41	45	86

順位	氏 名	俱楽部	アウト	イン	合計
40	青柳 俊男	那須 小川	42	44	86
40	荻津 邦	水 戸	43	43	86
40	西山 駿	蘿 之 台	42	44	86
40	古口 文志	ダイヤグリーン	43	43	86
40	古川 友二	本 厚 木	43	43	86
40	渡辺 松吉	藤 岡	43	43	86
40	川口 修	錦 ケ 谷	44	42	86
52	小野田 寛	中 山	45	42	87
52	藤形 稔一	長 野	41	46	87
52	木村 政雄	長 岡	42	45	87
52	林 定雄	袖 ケ ハ	41	46	87
52	浜田 良雄	武 蔵	44	43	87
52	本橋 久雄	江 戸 嶺	39	48	87
52	山中 正市	相 模	41	46	87
52	毛利 好	岡部チサン	42	45	87
60	菅沼 重男	本 厚 木	45	43	88
60	飯島 一雄	あさひヶ丘	46	42	88
60	大澤 武次	越 生	44	44	88
60	河地 義幸	蘿 之 台	46	42	88
60	物部 基	多 摩	45	43	88
60	中村 正信	我 孫子	46	42	88
60	杉山 英男	霞 ケ 間	42	46	88
60	藤原 良光	東 京 国	44	44	88
60	渡辺長四郎	飯 岬	43	45	88
60	本吉 敏男	東 京 国	42	46	88
70	蓼沼 賢二	唐 沢	47	42	89
70	蓼 西 国	大 厚 木	47	42	89
70	福葉 忠治	浅 見	47	42	89
70	目崎 隆司	我 孫子	46	43	89
70	大場角次郎	東 京	45	44	89
70	三輪源次郎	霞 ケ 間	45	44	89
70	小野 逸世	東 京 国	42	47	89
70	井上 與	東 京 国	40	49	89
70	竹内良三郎	相 模	43	46	89
79	川津 保	蘿 之 台	49	41	90
79	野崎 雅保	江 戸 嶺	47	43	90
79	神林 錠	我 孫子	46	44	90
79	高橋 敏	入 間	43	47	90
79	石津 昌夫	錦 ケ 谷	44	46	90
79	菅沼 計二	鶴 舞	45	45	90
79	後藤 敏二	東 名 厚 木	47	43	90
86	武石小二郎	烏 山 城	45	46	91
86	南山 均	穗 高	43	48	91
86	荻野 信男	日 光	47	44	91
86	福田 国三	洞 沼 シ サイド	42	49	91
90	岩下 広信	横 滝	44	48	92
90	松山 七守	皆 川 城	46	46	92
90	山田 務	相 模	44	48	92
90	古泉 三男	青 梅	44	48	92
90	山口 実身	白 風	47	45	92

#### 特別表彰

- (10回出場表彰) 新井 邦史(あさひヶ丘) 井上 朗(拂 ケ 岡) 井上 刚彦(相 模 原) 岩下 広伸(横 滝) 内山 正寄(桜 ケ 丘)  
 大澤 武次(越 生) 大場角次郎(東 京) 岡野 幸男(日 高) 押谷七兵衛(袖 ケ 浦) 小野 逸世(東京国際)  
 笠原 貞夫(日 高) 川津 保(蘿 之 台) 古泉 三男(青 梅) 古口 文志(ダイヤグリーン) 小宮 五郎(蘿 之 台)  
 小宮山光正(蘿 之 台) 芝入 俊雄(拂 ケ 岡) 柴田勝日出(東京国際) 鈴木 政伊(相 模)  
 野原 敏男(青 梅) 浜田 良雄(武 蔵) 目崎 隆(我 孫子) 毛利 好(岡部チサン) 賴 俊文(小 金 井)  
 渡辺 松吉(謙 訪)  

(15回出場表彰) 上津原時雄(ノザヒ監督) 萩津 邦(水 戸) 栗原栄二(柏) 河内石太郎(武 蔵) 中村 正信(我 孫子)  
 福田 国三(38シーサイド) 前田礼一郎(我 孫子) 宗光 厚(水 戸) 山中 正市(相 模)  
 (20回出場表彰) 神林 錠(我 孫子) 清水 武男(水 戸) 鈴木 義平(船 橋) 武石小次郎(烏 山 城) 浜野 賢(レインボー)  
 (25回出場表彰) 柳引 大吉(拂 ケ 山)

\*出場回数は関東シニア決勝を含めての通算

## 平成7年度 関東女子ゴルフ選手権決勝競技

●開催日 平成5年5月15日(月)～16日(火)  
 ●開催コース 筑波カントリークラブ 6,218ヤード バー72

### あどけないチャンピオン

—17歳 福嶋浩子が優勝—

文・吉川英明(KGA広報委員)  
 写真・石川博英(KGA広報委員)

平成7年度の関東女子ゴルフ選手権競技は雨の幕を開けとなつた。

大会初日の5月15日、雨は昼前から激しさを増し、水戸地方気象台の発表によると、気温も正午で17度2分までしか上がらなかつた。まるで春先のような肌寒さの中のゲームとなつた。

気温が低く芝が濡れているから、必然的にドライバーの飛距離は落ちる。女子には苛酷な試合となつたが、上位の選手達のスコアは立派だつた。

初日を終わつて、トップは中野陽子選手(新千葉)の73。これを2ストローク差で福嶋浩子選手(川中島)、田崎史子選手(鹿沼72)、中島真弓選手(甲斐駒)の3選手が追うといふ展開となつた。

一時は土砂降りともいえる条件の中で、中野選手のワンオーバー73は見事なものだし、以下13位までが70台という成績は、女子の実力が確実に向上升していることの証しと言えよう。

### あ、それじゃ優勝よ!

選手や関係者の祈りが天に通じたのだろう。二日目は明け方から雨も上がり、曇り微風といふ好コンディションとなつた。

午前8時、水気を含んで鮮やかさの増した筑波カントリークラブの新緑が、選手達のティーオフを静かに待つていた。

首位というプレッシャーが大きかつたのか、中野選手が出足でつまずいた。

1番ホールをバーで切り抜けたものの、2、3番とボギーを続いた後、4番のショートホールでダブルボギーを叩いて、一気に通算5オーバーまでスコアを落としあつたのだ。

一方、初日3オーバー、2ストローク差の2位から中野選手を追う福嶋選手は、パット、ショットとも好調だつた。

まず、3番のミドルホールでバーディーを取ると4番も手堅くバーとし、この時点で通算2オーバーにスコアを伸ばして中野選手を3ストローク逆転した。

福嶋選手はこの後8、9番をボギーにして4オーバーに後退したが、6番のショートホールでもボギーを打った中野選手に2ストロークの差をつけてアウトをターンした。



姉(福嶋晃子プロ)についてチャンピオンの座を占めた福嶋浩子さん



最終組3人娘 右より福嶋、中島、中野さん

だが、この時、首位を争う二人をひたひたと追いあげている選手が二組前にいた。

前日、6オーバー78で9位につけていた金沢鈴華選手(常陽)だった。

金沢選手は、アウトを1バーディー、ノーボギーという素晴らしいゴルフでターンしていた。前日より1ストロークスコアを伸ばして、通算5オーバー。アウトを終わった段階で、中野選手と田崎選手を抜き、首位を行く福嶋選手に1ストローク差と迫っていたのだ。

金沢選手の勢いはインに入つても衰えず、10番のロングホールをいきなりバーディーとしてこの日2アンダー。通算スコアを4オーバーまで縮めた。

だが、福嶋選手は強かった。

8、9番に続いて10番のロングホールもボギーとし、そのままさすがに後退するかに見えたが、次の11番で見事なバーディーを奪つて踏み留まった。

まさに、急な斜面を滑り落ちる途中で、堅固な岩に足が掛かったといった感じのバーディーだった。

続く12、13番と手堅いバーで態勢を整えた後、14番、15番の連続バーディーで、一気に金沢選手を振り切つた。

福嶋選手は、この後、17、18番と、いずれも50センチほどの短いパットをはずしてボギーにしたが、それでも金沢選手に2ストローク差をつけての余裕の優勝だつた。

最後の2ホール、いとも簡単にはずしてしまつたという感じのパットだったが、その辺の心理を試合後の福嶋選手に聞いてみた。

「あたしは、いつも上がりが悪いんです。きのうもそうだったし、今日のアウトも上がり2ホールがボギーなんです。あの時も、同じことは絶対にするまいと思いついたのが、却つていけなかつたんですかねえ。やっぱりはずしちゃって、ボギーボギーの上がりになっちゃつた」

けらけらと明るく笑う。

17番で2位に4ストローク差、余裕がありすぎたのではと訊くと、そうではないと言う。

「2位のスコアも全然知りませんでした。ホールアウトしてから、母に“いくつだったの？”って訊かれて“今日は1オーバー、トータル4オーバー”って言つたら、“あ、それじゃ優勝よ”って言われて……」

まるで、どこかのプライベート・コンペティションに、たまたま勝つたとでもいうような何気なさである。

屈託のない表情と、まだあどけの残るしゃべり方を聞いていると、栄冠を勝ち取つたという力みがまったくない。関東女子選手権の優勝が、いつも簡単のことのように思えてきてしまう。何とも爽やかなのだ。

(これが、若いということなんだろうな)

### 女子ゴルフ界に 限つたことではない……

そう思つて、今年20年連続出場で表彰された尾関久江選手(武藏)に、女子ゴルフの今昔感を聞いてみた。

「20年前と比べると、雰囲気はがらっと変わつたと思います。明るくなつたと



決勝20回出場の尾関久江さん

思うわ」

尾閑選手は、言下にそう答える。

「若い人が多くなったから、雰囲気は当然変わりますよね。それに、昔は誰それが恐いとか、いじめがあったとかいう噂もあったでしょう。今は、10代のジュニアの選手から60歳のシニアの選手まで、全員が一生懸命練習して技を競い合っている。選手権が本来あるべき姿になっていると思う。それが、爽やかに繋がるんだと思うわ」

若い人が多くなって、服装その他マナーの点で時々批判も聞くが、その点についてはどうだろう。

「そうねえ、でもそれは、女子ゴルフ界に限ったことではないと思います。新人類といわれるよう社会一般的な問題であります。若い選手達も段々変わってくるんじゃないかな。そういう意味では、私達年輩者も責任が重いと思うし、襟を正さなければいけないでしょうね……」



最年長選手の大谷悦子さん7歳

りすぎると、うるさいおばさんて言われてしまう。そこが嬉しいわ」

尾閑選手は、そう言って肩をすくめた。

確かに、一般的に女性は男性に比べて感情に囚われやすい。男の先輩が後輩を一喝するようなわけにはいかない。指導しにくい悩みが女性の場合もあるようだ。女子に10代のチャンピオンが輩出する昨今、男性の先輩ゴルファー諸兄にも、女子ゴルフ界の今後を暖かく見守って欲しいと思う。

初日から大雨に祟られた今大会だったが、その他特筆すべきは、コースコンディションの素晴らしさだった。殊に、グリーンの水捌けのよさは類を見ないほどで、あの大雨の中、一度も中断せずに競技を終えることが出来た。公式競技開催コースのグリーンは、かくあるべしと言える出来栄えだった。

最後にまた優勝者の話題に戻ろう。

「飛距離では、姉(福嶋晃子プロ)に絶対敵いませんが、今、一生懸命小技を磨いています。将来はやはりプロになって頑張りたいと思います」

そう言い切った17歳の瞳は、あどけなさの奥に燃える炎を秘めていた。

関東女子選手権は、今回もまた、大きく羽ばたこうとする未来の鳳を生んだ。

## 平成7年度 関東女子ゴルフ選手権決勝競技成績表

参加者136名 出場者131名

順位	選手名	所属	第1ラウンド		第2ラウンド		合計			
			アウトイン	イン	アウトイン	イン				
1	福嶋 晃子	川中島	37	38	75	37	36	73	148	
2	金澤 鈴華	常陽	37	41	78	35	37	72	150	
3	田嶋 史子	鹿沼	72	36	39	75	40	36	76	151
4	中野 陽子	新千葉	36	37	73	41	39	80	153	
5	渡辺 恵子	高根	40	36	76	40	37	77	153	
6	東尾 理子	新千葉	39	39	78	38	39	77	155	
7	鈴木志乃美	下野	41	41	82	37	37	74	156	
8	新井 裕美	ノーザン倶楽部	38	40	78	39	38	78	156	
9	村田トシ子	鍛ヶ谷	37	40	77	38	41	79	156	
10	石津 朋子	草月・鹿沼	39	38	77	40	41	81	158	
11	中島 真弓	甲斐駒	39	36	75	40	43	83	158	
12	大竹 康子	下野	38	42	80	42	37	79	159	
13	中野 明紀	月	39	39	78	43	38	82	160	
14	小池 永子	宇都宮国際	40	39	79	42	39	81	160	
15	板垣真由美	鹿沼	38	43	81	42	37	79	160	

順位	選手名	所属	第1ラウンド		第2ラウンド		合計		
			アウトイン	イン	アウトイン	イン			
13	増田 知代	甲斐駒	38	39	77	41	42	83	160
17	船岡万里子	長野	40	42	82	39	40	79	161
17	湯原 光葉	鳥山城	42	41	83	38	40	78	161
19	箱田 美樹	甘楽	43	42	85	40	37	77	162
19	増田 京子	筑波	40	43	83	40	39	79	162
19	鈴木 淳子	扶桑	42	40	82	40	40	80	162
22	新葉 るり	日本大	43	41	84	40	39	79	163
22	戸部千賀子	君津	40	42	82	40	41	81	163
22	西田美千子	東千葉	41	42	83	39	41	80	163
22	片野 忠保	関東ジュニア	40	43	83	43	47	80	163
26	高橋千津子	秦野	41	43	84	39	41	80	164
26	加藤 勝栄	相模原	42	46	88	35	41	76	164
28	宮崎 啓	中央学院大	42	42	84	43	38	81	165
28	毛綱 緑子	扶桑	47	41	88	38	39	77	165
28	荻原真由美	太田双葉	43	41	84	41	40	81	165

順位	選手名	所属	第1ラウンド		第2ラウンド		合計		
			アウトイン	計	アウトイン	計			
31	中島 佳乃	スカイウェイ	43	44	87	39	40	79	166
31	笹岡美保子	穂高	41	43	84	41	41	82	166
31	五十嵐洋子	藤岡	42	40	82	43	41	84	166
31	中田 朱美	袖ヶ浦	42	42	84	40	42	82	166
31	加藤 理刈	伊豆大仁	41	43	84	40	42	82	166
31	塚原 令子	東千葉	42	43	85	41	40	81	166
31	三木恵美子	富士	39	41	80	39	47	86	166
38	山田 千代	草月・佐野	41	44	85	40	42	82	167
38	杉浦ともみ	寄居	40	41	81	45	41	86	167
38	大塚有理子	宿修大	45	39	84	41	42	83	167
38	狩野 実子	上毛森林	44	43	87	41	39	80	167
38	青木 英子	千葉	42	43	85	42	40	82	167
43	青藤 滉雪	浜野	43	40	83	43	42	85	168
43	戸部賀代子	君津	43	45	88	41	39	80	168
43	猪股美恵子	上総富士	44	40	84	42	42	84	168
43	上條 遼子	松本	44	44	89	38	41	79	168
47	高橋 克子	東松山	42	42	84	42	43	85	169
47	牛込 成美	慶大	44	41	85	42	42	84	169
47	野野原美江	上毛森林	40	41	81	46	42	88	169
47	飯沼 恵子	日光	44	39	83	42	44	86	169
47	鈴木八重実	ザ・鹿野山	43	43	86	38	45	83	169
52	矢島智恵子	富士	43	45	88	41	41	84	170
52	一迫マテ子	筑波	42	43	85	44	41	85	170
52	中村 静江	東千葉	41	45	86	42	42	84	170
52	東尾タマ	ザ・レイクス	42	46	88	37	45	82	170
56	大村透支子	リバーウィー	44	43	87	41	43	84	171
56	森 美代	船橋	41	43	84	42	45	87	171
56	山田 啓子	河口湖	42	44	86	39	46	85	171
59	中山 高子	富士道	42	48	88	43	41	84	172
59	小川 潤子	白帆	43	44	87	43	42	85	172
59	岩田 淳子	相模野	44	44	88	42	42	84	172
59	菊地恵美子	宇都宮	42	43	85	44	43	87	172
63	加藤 百恵	日本大	44	40	84	44	45	89	173
63	小島美智子	新千葉	44	43	87	44	42	86	173
63	大堀 朝子	新千葉	44	43	87	44	42	86	173
63	山崎美津江	秦野	44	43	87	42	44	86	173
63	中山 康子	茨城プリックス	46	43	89	43	41	84	173
68	米倉 通代	潮来	46	45	91	42	41	83	174
68	楠 透子	船橋	45	43	88	44	42	86	174
68	林 リサ	南北	46	43	89	43	42	85	174
68	坂尾 栄子	銭	43	42	85	43	46	89	174
68	黒沼カオル	鶴舞	43	42	85	45	44	89	174
68	服部 みつ	小田原・松田	40	48	88	43	43	86	174
68	甘糖 澄子	東千葉	43	42	85	43	46	89	174
75	石塚 駿子	サンフィールド	44	47	91	44	40	84	175
75	目崎美枝子	江戸崎	48	42	90	43	42	85	175
75	阿部 実子	鳥山城	44	43	87	45	43	88	175
75	福田 光子	東名木木	43	45	88	44	43	87	175
79	亀井 紬子	河口湖	46	44	90	42	44	86	176
79	手塚 雅子	霞ヶ関	47	43	90	44	42	86	176
79	時間美恵子	中津川	44	44	88	46	42	88	176

順位	選手名	所属	第1ラウンド		第2ラウンド		合計		
			アウトイン	計	アウトイン	計			
82	梅村 俊子	藤岡	46	45	91	45	41	86	177
82	菊池 文子	岡部チサン	47	46	93	41	43	87	177
82	野平 真弓	千葉廣済堂	49	48	97	39	41	80	177
82	荒山 朋子	長野	46	42	88	45	44	89	177
82	田村千代子	鎌ヶ谷	45	45	90	43	44	87	177
82	坂井 順子	千葉	47	43	90	43	44	87	177
88	青藤 和子	取手原	46	45	91	46	41	87	178
88	東郷 駿子	東郷	43	46	89	43	46	89	178
88	松井 俊子	平川	43	45	88	45	40	87	178
88	正木 英子	立川国際	47	44	91	45	42	87	178
88	鷺島 啓子	横浜	46	44	90	43	42	88	178
93	水井 伸子	春月・佐野	46	47	93	44	42	86	179
93	島崎 吉枝	葉山国際	45	44	89	43	47	90	179
93	大谷 悅子	東千葉	47	46	93	44	42	86	179
93	吉崎 範子	東名厚木	46	45	91	46	43	89	180
93	小野田 とき子	君津	48	42	90	43	47	90	180
98	永瀬 春江	水元	45	44	89	45	47	92	181
98	利 和子	日高	44	41	85	47	49	95	

## 平成7年度 関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技

●開催日 平成7年6月13日(火)~6月16日(金)

●開催コース 袖ヶ浦カントリークラブ・袖ヶ浦コース 7,151ヤード パー72

文・杉山通敬 (KGAG広報委員)

写真・片山晴美 (KGAG広報委員)

### 学生対社会人の争い



松浦副理事長より優勝盾を授与される今野康晴選手

昭和61(1986)年以来、10年間の関東アマ優勝者は今年の今野康晴(日大4年)を含めて、学生が6勝、社会人が4勝である。学生対社会人の対抗戦の様相が強くなっているのだが、今後10年はどのような推移になるであろうか。昨年までの学生優勝者はすべてプロに転向している。参考までに列記すると川岸良典(昭和62年)、伊沢利光(63年)、丸山茂樹(平成1、2年)、片山晋吾(6年)である。これに対し社会人優勝者は阪田哲男(昭和61年、平成4、5年)と堀越栄治郎(平成3年の2人にすぎない)。

この10年間は学生対阪田の対抗になっていたと言ってよいのだが、学生優勝者がつぎつぎとプロに転向し、阪田ひとりが毎年に入れかわり立ちかわりする新しい学生を相手にするのであれば、今後は学生対社会人の対抗の様相はさまがわりするであろう。関東アマは学生に席捲され、席捲した学生はアマからプロの世界へ転出していくのだから、阪田がいかに孤軍奮闘しても、この対抗は社会人に勝ち味はない。阪田(昭和24年生)もこの8月には46歳になる。



孤軍奮闘した阪田哲男選手(中央)

### 1番アイアンの快打

今年も優勝争いをしたのは阪田と学生の今野(昭和48年生)であった。初日、2日が大雨に見舞われたため、スコアは低調であったが、両者の争いは最終日になって白熱した。阪田は昭和52年に初優勝して以来、すでに6勝しているのに対し、今野は4回目の出場で昨年と1昨年の10位が最高位である。

2人は同じ組(最終組)で回っていた。今野の1打リードで17番(230ヤード、パー3)を迎えた。オナーの阪田がフェアウェイウッドで右バンカーの手前にショートさせた後、今野は1番アイアンで打つ。ゆったりとしたテンポで伸びやかなスwingだった。ボールはピンを目がけて一直線に飛び、ピンに重なるようにして4メートル上に乗る。阪田がやっかいなアプローチを1メートル寄せたあと、今野は上からのスライスラインを見事なタッチで、カップの左肩から計ったように入れた。「勝負のバットだと思い、狙って入れました」

このバーディが決定打となった。阪田はパーで収めたが、残り1ホールで2打差となり学生の軍門に降った。

「昨日から阪田さんと一緒にプレーできるのを楽しみにしていました。別に意識したというのではなく、過去6回のチャンピオンでもあり、袖ヶ浦は阪田さんのホームコースでもあるので、参考にさせてもらうことが多く、学生と回るよりプレーしやすかった。今年は初めから勝つ気で参加させてもらったので、すごくうれしいです」

果たして来年はディフェンディング・チャンピオンとして再出場するか。それともプロに転向するか。今は分らない。

## 平成7年度 関東アマチュアゴルフ選手権決勝競技成績表

参加者154名 内決勝ラウンド進出者72名

順位	選手名	所属	第1ラウンド	第2ラウンド	第3ラウンド	第4ラウンド	合計
1	今野 康晴	本千葉	77	71	76	73	297
2	日暮 俊明	扶桑	75	77	74	72	298
3	太田 勇男	大相模	85	75	68	71	299
3	山本 元成	日本大	77	81	71	70	299
3	金子 光規	レインボ-	75	78	74	72	299
3	阪田 哲男	袖ヶ浦	78	78	68	75	299
7	市原 建彦	茨城県アマ	76	75	74	76	301
7	重原 啓利	日本大	77	73	75	76	301
9	岩本 高志	扶桑	80	75	73	74	302
9	白井 敏夫	絆武	79	79	72	72	302
11	石井 保行	東名厚木	78	76	75	74	303
11	宮 辰夫	習志野	77	74	76	76	303
11	今井 克宗	かずさ	81	76	74	72	303
11	室伏 健二	東名	84	75	72	72	303
11	波当横弓彦	関東ジュニア	77	79	78	69	303
16	沢田 信弘	長南	79	81	74	70	304
16	和田 博	東京五日市	78	77	75	74	304
18	浅川 彰彦	武藏	82	77	76	70	305
18	長尾 卓	日本大	76	80	76	73	305
18	室野 歩	新千葉	78	77	74	76	305
21	桜井 嶽秋	新千葉	83	78	77	68	306
21	和田 真彦	法政大	79	76	76	75	306
21	志村 幸夫	日立	80	75	73	78	306
21	伊藤 修司	鹿沼	76	75	77	78	306
25	国吉 博一	日本大	83	77	72	75	307
26	宮本 恵治	東名	83	77	74	74	308
26	小林 正則	日本大	81	77	76	74	308
26	成田 朋正	豊岡国際	80	75	80	73	308
26	加藤 一彦	千葉	78	79	76	75	308
26	平山 裕基	絆武	80	74	76	78	308
26	辻村 明志	日本大	80	75	76	77	308
32	井端 和生	大熱海国際	81	75	78	75	309
32	杉原 豆	関東ジュニア	81	79	74	75	309
34	遠藤 修	同部チサン	76	84	76	74	310
34	福島 達雄	廣済堂埼玉	81	80	74	75	310
34	中村 守	水戸グリーン	78	77	76	79	310

### ■予選メダリスト

第1ブロック (GMG八王子)	太田 伸勇(大相模)	73ストローク
	杉田 努(GMG八王子)	73ストローク
第2ブロック (深谷シティ)	全 正出(ダイヤグリーン)	73ストローク
	重原 啓利(日本大学)	73ストローク
第3ブロック (愛鷹)	金子 光規(レインボ-)	71ストローク
	石井直人(奏 野)	71ストローク
第4ブロック (郡須小川)	上杉 好秀(富士宮)	71ストローク
	金田昌富(ヒルクレスト)	69ストローク
第5ブロック (千葉夷隅)	廣元 安雄(雄 子)	73ストローク
	水上晃男(フォーシーンズ)	73ストローク
第6ブロック (清 春)	坂井 保(東京湾アソシズ)	73ストローク
	閑 慧植(日本大学)	73ストローク
	杉原 直(関東ジュニア)	73ストローク
	五十嵐将司(関東ジュニア)	73ストローク
	増田 東一(山梨県アマ)	69ストローク

順位	選手名	所属	第1ラウンド	第2ラウンド	第3ラウンド	第4ラウンド	合計
37	中野 弘治	美 菩	81	79	77	74	311
37	岡田 光史	嵐 山	78	79	76	78	311
37	宮本 清	小 川	82	79	75	75	311
37	小久保武夫	藤 岡	78	77	83	73	311
37	中島 廣行	伊豆にらやま	82	79	76	74	311
37	後藤 駿	中央学院大	83	78	78	72	311
37	鷹田 英久	日本大	80	78	73	80	311
44	西野 貴治	バ エ	76	84	76	76	312
44	井上 幸行	大相模	80	77	78	77	312
44	徳永 雅洋	ザ・レイクス	79	80	75	78	312
44	矢野 東	セイブスプリングス	80	77	75	80	312
44	広井 智一	廣済堂埼玉	81	80	76	75	312
44	小川 洋	青山学院大	82	78	78	74	312
44	田村 敏明	湯 津	82	77	77	76	312
51	藤崎 和典	富士・笠間	80	79	79	75	313
51	鈴木 雅士	寺 修 大	79	78	80	76	313
51	杉田 翼	GMG八王子	79	78	81	75	313
51	鶴田 隆一	寺 修 大	79	78	74	82	313
51	豊崎 義明	新 千 葉	81	76	78	78	313
56	中村 清	水 戸	78	78	79	79	314
56	古屋 浩	東名厚木	82	79	78	75	314
58	手塚 拓磨	法 政 大	80	80	80	76	316
58	半田 容一	矢 板	78	79	79	80	316
60	矢野 学	姉ヶ崎	80	81	77	79	317
60	石井 直人	奏 野	80	77	80	80	317
62	岡野 英身	関東ジュニア	79	79	83	77	318
62	吉原範比古	KGA特別承認	79	81	79	79	318
62	原 錠雄	相 模 原	79	80	79	80	318
65	小俣裕次朗	扶 桑	85	76	77	81	319
65	渡辺 元嗣	富士チサン	84	77	78	80	319
65	高山 薫	熊 谷	82	78	78	81	319
68	中村 貴志	扶 桑	81	80	80	79	320
68	安田 進	千葉新日本	80	76	81	83	320
68	秋山 市朗	大熱海国際	82	79	82	77	320
71	中村 彰宏	奏 野	80	81	85	80	326
71	黒元 安雄	姉 子	84	77	83	82	326

### ■特別表彰

決勝競技10回出場表彰	小久保武夫(藤 岡)
志村 幸夫(日立)	
杉田 翼(GMG八王子)	
中島 廣行(伊豆にらやま)	
日暮 俊明(扶 桑)	
和田 博(東京五日市)	
新村ヨシオ(千 葉)	
宮 辰夫(奏 野)	
20回出場表彰	
大竹 駿(高 根)	
加藤 一彦(千 葉)	

## 平成7年度 関東倶楽部対抗決勝競技

- 開催日 平成7年6月26日(月)
- 開催コース 相模原ゴルフ・クラブ
- Aクラス(西コース) 6,724ヤード パー72
- Bクラス(東コース) 7,175ヤード パー74

### 雨中 新旧倶楽部入り乱れての熱戦

文・宮元昭雄 (KGA広報委員)  
写真・石川博英 (KGA広報委員)



相山常務理事より優勝盾を受ける  
相模原 波間キャプテン

梅雨の小雨は降り止むことなく終日コースを湿し続けていた。18ホールを開き続ける選手たちの足どりも重そうだ。

応援の人たちの傘の輪が広がるグリーンサイドでは、期待を一身に背負って頑張りつづける選手の一球一打に、敵味方なく大きな声援が飛ぶ。まさに倶楽部対抗ならではの微笑ましい光景である。

午前の9ホールが終った段階で、東名をトップに総武、袖ヶ浦、相模原、芳賀、水戸と戦前に予想された強豪チームの名前が、特設されたTV速報機に映し出され、そのスコアの動きを見ようと黒山の人だから。この速報システムのアイデアは大成功だ。

6人のトータルで覇を競う。その6人制のむずかしさをもう一度研究して出直していく。とこの2年間予選落ちの東名が、さすが実力にものを言わせてはやくもトップに躍り出るという勢いだ。

25回決勝進出という最多記録を持つ袖ヶ浦も、昨年の轍は踏まないといわんばかりの好調な出足だ。

1都10県、14ブロックから勝ち進んできた40チームに決勝開催倶楽部の相模原を加えた41チーム。6

人制になって3年目、人選を誤まれば勝目はないといわれるだけに、どう戦い抜くか、それぞれが秘策をもって望む雨中の大熱戦だ。

三連覇を狙う新千葉、若しその偉業が成れば昭和35年から三連勝した我孫子の記録と並ぶ快挙であるだけに、その話題もひとしきりつきない。

2年連続は過去に相模や相模原、千葉などが達成している。連覇ですらむずかしいこの競技で三連覇となれば大変なことである。それだけに新千葉の意気込みが静かに伝わってくる。

### 復活した古豪倶楽部

倶楽部対抗の歴史をふり返ってみると、昭和40年代に入って千葉県勢が頭角を伸ばし、特に千葉、中山、袖ヶ浦の常連組の活躍が目立った。とくに関東アマなどの実力選手を擁したチームの善戦が見られた。昨今はチームレベルも平均化し、特に倶楽部の研修会などは年間を通じて選手の強化につとめるなど、若手のメンバーの多い倶楽部ほど有利とあって、60年代は新設倶楽部の進出が目立ちはじめた。

つまり歴史の古い倶楽部ほど決勝進出がむずかしくなっているということだ。いわばゴルフの大衆化が進み、アウト・ドア・スポーツの花形としてゴルフが老若男女に愛好される時代とはいえ、ゴルファーにとって古い倶楽部は、入会がむずかしくなった。そのため新設ゴルフ倶楽部に若手が集ってくるという現象の結果ともいえるのである。

しかし、今年は小金井、相模というかつての古豪倶楽部が久しぶりに決勝に登場してきて話題を集めた。小金井は昭和52年以来2度目、相模は58年以来6度目という。まさに大拍手ものである。



今大会の話題となった 小金井(上) 相模(下)の選手団



今大会の話題となった 小金井(上) 相模(下)の選手団

一口に決勝進出といっても実力もさることながら、運が味方しなければ狭き門はくぐれない。それだけ今は実力伯仲の時代なのである。

KGA加盟倶楽部は456、本年度倶楽部対抗に参戦した倶楽部数は275、各ブロックから2~3チームが選ばれてくるわけだが、今年の予選結果をみると、1ストローク差で決勝進出を果せなかつたブロックが8地区もある。歓喜と絶望の境はたったの1打差、まことに苛酷な戦いが各地で行われた。

一年間の激しい鍛錬を積み重ね、吾れに勝算ありと勇んで参戦する各選手であっても、結果は1打差で天国と地獄を分ける非情なゲームなのだ。

今年ほど記録づくめの大会は過去にない。昭和9年程ヶ谷で関東地区の7倶楽部で初の親睦競技会が開催された。以来60年の歳月が流れている。しかも今年はKGA創立60周年の年でもある。つまりこの7倶楽部の対抗競技が現在の関東ゴルフ連盟結成のキッカケになったわけである。

昭和16年から28年までの間は戦争などの影響で一時中断されたが、昭和29年に相模で再開されて以来、49回目を数える今大会であった。ふり返って見て、この倶楽部対抗競技がわが国のゴルフ界に果してまた役割は極めて大きなものであると言えよう。

バブルが崩壊し、今や未曾有の不況の中でゴル

フ界もその苦境脱出に呻吟している。また一時期ではあったが、この倶楽部対抗の存続をめぐって諸説頻々のときがあったが、ゴルフ倶楽部がメンバーの主権のもとに存在する限り本競技も存続するだろう。それがカントリークラブ本来の姿であるからだ。加盟倶楽部全体にその意識が高まることが、やがてはゴルフ界の発展につながる。倶楽部対抗は、親睦の中にクラブライフが育っていくことの象徴なのだ。このことを考えるといつまでも倶楽部対抗の灯は消してはならないと思うのである。

むしろ、さらに発展させて全日本倶楽部対抗の新設を筆者は望みたい。

せっかく8地区的各連盟では、関東と同じように倶楽部で対抗戦が開かれているのだから、その上位1~2位のチームを一堂に会して行なうことは大いに意義あることではないだろうか。方法論はいくらでも考えられる。要はJGAのやる気の問題だ。

金がかかるることは駄目だと、スケジュール的に無理だと、そんな理由などは言い訳にすぎない。ゴルフが国体の種目に採用され、老若男女が愛好する時代なのだ。スポーツでありながら税金を徴収されるのはゴルフだけだし、どこか矛盾の多いゴルフ社会だが、眞の生涯スポーツとして未来を展望した場合、何も憶することはない。素晴らしいことはどんどんやって欲しい。

### 相模原 無欲の勝利

さて競技にもどろう。とにかくこの雨の中、各倶楽部のお歴々が早朝から応援と観戦にやって来ていた。嵐山の吉田理事長など、午前八時半、開門まもなくの来場だ。総武、中山、スプリング・



優勝のほほえみを満面に 相模原チーム

フィルズと3倶楽部が出場するのでKGA小宮山常務理事は早々の到着、関係者一同に叱咤激励に余念がない。今年こそはと昨年、一昨年の雪辱をなんとか果したいの意気込みが伝わってくる。

KGAの内田広報委員長



上りホールのまわりは心配そうな応援団にうずまつた

も、広報の職務をかねて12年振りに決勝進出を果した自チーム相模の応援も忘れない。過去3回も優勝している相模にとっては久し振りに訪れたチャンス。昭和59年に3度目の優勝を果して以来、女神からすっかり見離されたままであるが、小金井には絶対に負けたくないという内に秘めたファイトがうかがえる。これが自分の俱楽部を愛するメンバーの気持というものかと思った。

福田彰常務理事、相山常務理事のお顔も見える。これだけKGAの役員が顔を揃えた決勝大会も初めてではなかっただろうか。

年に一度の一大イベントだ。尾関競技委員長ほか40名にも及ぶ競技員たちの雨中のボランティアの活動振りも見事なものであり、頭の下る思いだった。

昭和40年代の前半は参加俱楽部も少なくなく、優勝も東京、相模、我孫子、相模原とオープンの古い俱楽部が制していた。40年代後半から50年代にかけて参加チームも100俱楽部を越え60年代にはその数も200を越し、今年度の参加チームは275俱楽部、大変な隆盛である。試合方式は年代を追うごとに変化され、8人のベスト7の時代から現在の6人制による全員のトータルスコア方式となるが、そのスコアも450ストロークを切らねば優勝は無理、つまり、一人平均75ストローク、ずば抜けた一人の成績より全員が平均してまとめるところに6人制の意味がある競技方法だけにむずかしさもあるが、おもしろさも昔に比べて倍加したようにも思えるのである。

今年初参加は7俱楽部、それぞれの激戦区をよくぞ切り抜けて決勝に進出してこられたことに先ず敬意を表したいものだ。

群馬の関越ハイランドや、千葉第2地区での南千

葉など強豪を尻目に予選をトップで通過した成績は絶賛に値いしよう。

決勝で7位に入賞した埼玉の東松山も関東一の激戦区といわれる埼玉から堂々の参戦、しかも決勝でのこの成績は来年にかけて大きな自信となつたことであろう。

戦前の下馬評は新千葉の三連覇と嵐山、総武、東名、袖ヶ浦の名前が優勝候補にのぼっていた。そして地元相模原はダーク・ホースとして注目されていた。それが関東アマの実力選手をかけ、彼らの出来具合で勝利への趨勢が分かれるという悲喜こもごもの思惑が生れる。それだけに期待をかけられた選手たちの重圧、そのプレッシャーは大変なものであったと思う。

相模原は地元の利に加えて、人選に当ってはかなり慎重に行なったと関係者はいう。ホスト・チームほどその持てる実力を出し切れないまま終るケースが多い中で、選手たちの手堅さとその重責に耐えた健闘は、単なる優勝という二文字以上に、俱楽部創立40年という記念すべき年に栄冠をかちとったということの意義の方が、より大きい感激になったのではないだろうか。

松本理事長は無欲の勝利を、控え目にその喜びを語ってくれたが、25年振りの優勝は俱楽部関係者にとって感慨もひとしおのものであったろう。心から相模原の健闘を賛えたい。

総武と相模原がせり合って、最後の最後までもつれ込んだ試合だった。最後の一人がフィニッシュするまで、ハラハラのし通しだった。総武の清水選手もこの重圧に耐え、ラスト・ホールをバーでまとめてトータル78のフィニッシュ。この時点で大勢は総武有利との情報が走った。

相模原の松岡選手は前半の乱れを後半どこまでガマンしきれるかにかかっていた。バック9に入つて、11・12番と18番は特に難ホールだ。それだけに精神的に不利という見方が支配的だった。しかし14番からは人間が変わったように攻めの展開に変り、ことごとくバーセーブするというねばり強いゴルフ、そして最終18番は見事バーディでしめくくり、この時点では総武を1打差引き離して優勝が決定した。

熱気に包まれたクライマックス、緊迫した場面を制した松岡選手のファイン・プレー、まさに歓喜と絶望のわかれ道が運命の一打で決まった。

総武はまたも1ストロークに泣いた。2年連続決勝2位だ。しかしBクラスの杉山選手が、3アンダーの71のベストスコアでメダリストに輝いた。その健闘は賞讃にあたいしよう。

3位入賞した扶桑もお見事の一につきる。関東アマ2位の実力をもつ日暮選手ら、粒をそろえた決勝だったが、武運たなく、あと一步届かなかった。

東名も扶桑と同率ながら4位に泣いた。実力選手の出来如何ではと思ったが伸び切れなかった。

5位袖ヶ浦、6位嵐山と下馬評にのぼった強豪チームも今年は不調に終った。それよりも三連覇のかかった新千葉も今年はその願いが叶わず8位に終った。

全体を通じてチームのポイント・ゲッターの出来不出来が大きく左右したことは事実だ。もちろんワーストポイントをいかに押さえるかで重要な要素であることには間違いない。

作戦を立ててもその通りに行かないのがゴルフである。メンタルなスポーツだけに気力も去ることながら運不運も大きく左右する。だからゴルフはやってみなければ、わからないという。俱楽部対抗のおもしろさはどこのチームにもチャンスがあるということなのである。

これまで千葉県勢に覇権の気運が傾いていたが、久し振りに神奈川に移った。来年は茨城のセントラルで決勝が行われる。来年に向けてまた各俱楽部が研鑽につとめて参加してくることであろう。再会出来ることを楽しみにこの観戦記を閉じたい。

最後になったが、この大会を支えて下さった開催俱楽部、相模原の裏方さんたちに心から感謝の意を表しておきたい。

40年の歴史とともに、その樹木を重ねたコースの風格、東西両コースともに関東屈指のゴルフ場としての評価は、事実、グリーンにしてもフェアウェイにてもきれいに整備がつくされていた。金子支配人は前夜の激しい雨で心配の余り眠ることが出来ず、深夜に3回もコースを見廻ったという。まさにこの一年は大変な気苦労をしていただ



ギャラリープラザの大テント 内は応援団で大にぎわい

いたことになる。

ギャラリーのための特設プラザも、大変な人気であった。厨房は全員5時30分のスタンバイ、580食という選手や関係者たちの朝食のために、全力を挙げての準備だったという。本当にご苦労でした。雨で重くなったバックを引くキャディーさんたち、片手に持つ砂袋を片ときも離さず、ディボットを確実に埋めていく手早い動作、ゴルフを愛する人たちの一つになった輪が、こうした大会を大いに盛りあげてくれたといつても過言ではあるまい。

親善と友情が交叉するこの俱楽部対抗、参加した選手もまた新たな感慨をもって帰路に着いたことであろう。

大会の成功の裏側に、これを支えてくださった俱楽部関係者のみなさんの献身的なご協力があったからこそ無事に終えることができた。感謝の気持ちをこの一行に添えて楽しく観戦させていただいた御礼の言葉としたい。



福田彰常務理事の乾杯で大パーティーが開宴された

## 平成7年度 関東俱乐部对抗予選競技成績表

地域別 順位	東京 小金井		埼玉 高根		千葉第1 京葉国際		千葉第2 木更津		神奈川 相模湖		茨城第1 セベ・パレステロス		茨城第2 スプリングフィルズ	
	5月22日(月)	5月23日(火)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月26日(金)	5月23日(火)	5月22日(月)	5月26日(金)	5月23日(火)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	
1 立川国際	451	嵐山	476	新千葉	474	南千葉	482	相模	465	大利根	494	扶桑	490	
2 小金井	458	鴻巣	483	袖ヶ浦	476	中山	483	平塚富士見	465	セベ・パレステロス	502	戸	499	
3 GMG八王子	468	東松山	486	姉ヶ崎	477	総武	485	東名厚木	472	茨城バシフィック	503	スプリングフィルズ	501	
4 相武	471	岡部チサン	487	千葉	478	銚子	487	大相模	475	アジア下館	510	富士・笠間	502	
5 青梅	473	霞ヶ関	487	我孫子	480	東京スプリングス	491	戸塚	476	江戸崎	512	茨城	502	
6 府中	474	武藏	488	藤ヶ谷	480	東千葉	491	津久井湖	477	水戸グリーン	513	ニッソー	504	
7 東京五日市	474	浦和	488	ザ・鹿野山	483	千葉スプリングス	492	伊勢原	478	日立	514	龍ヶ崎	510	
8 王子	477	狹山	489	鷹之台	485	習志野	492	秦野	479	桜	514	土浦	515	
9 東京国際	485	廣済堂埼玉	492	長太郎	486	I.N.エアポート	492	小田原(松田)	482	霞ヶ浦出島	515	セントラル	522	
10 桜ヶ丘	486	寄居	492	鶴舞	488	フォーシーズン	495	大厚木	483	金砂郷	518	白帆	523	
11 武蔵野	486	飯能	494	真名	490	木更津	498	横浜	484	大洗	518	新水戸	524	
12 東京よみうり	489	高根	495	本千葉	490	千葉国際	500	大秦野	485	ザ・レイクス	522	浅見	530	
13 多摩	489	東京	496	千葉廣済堂	492	加茂	501	小田原湯本	487	霞台	525	筑波	532	
14 赤羽	513	高坂	496	鎌ヶ谷	493	成田スプリングス	501	磯子	487	取手国際	527	高萩	535	
15		熊谷	502	京葉国際	494	南総	501	葉山国際	489	常陽	530	那珂	535	
16		日高	503	八幡	495	一の宮	501	レインボー	490	麻生	543	宍戸	539	
17		ユニオンエース	506	船橋	495	白鳳	508	相模湖	493	潮来	550	桂ヶ丘	551	
18		川越	506	富里	496	紫	511	中津川	494	ダイヤグリーン	557			
19		入間	507	房総	499	長南	512	湯河原	494					
20		越生	510	柏	503	上総富士	515	東京カントリー	504					
21		鳩山	513	千葉新日本	504	かずさ	534	箱根	508					
22		ノーザン錦ヶ原	513	エンゼル	520	小御門	537	芙	517					
23		美里	513											
24		秩父国際	515											
25														
個人1位A	井上伯夫 (立川国際)	室町明 (鴻巣)	山野辺邦夫 (袖ヶ浦)	塩本勉 (加茂)	中野弘治 (相模)	大塙清一 (セベ・パレステロス)	中野裕美 (茨城)							
	71	75	73	72	71	79	75							
B	中野喜一郎 (小金井)	山内善正 (鴻巣)	阪田哲男 (袖ヶ浦)	矢島正美 (千葉スプリングス)	古屋浩 (東名厚木)	桜木博 (金砂郷)	藤崎和典 (富士・笠間)							
	70	74	73	75	70	74	71							

栃木第1 大平台 5月22日(月)	栃木第2 アローエース 5月22日(月)		群馬 ロイヤルオーク 5月22日(月)		静岡 三島スプリングス 5月22日(月)		長野 川中嶋 5月25日(木)		山梨 甲斐駒 5月22日(月)		新潟 柏崎 6年9月2日(金)		
	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	5月22日(月)	
紫塙	467	那須チサン	473	関越ハイランド	465	東名	459	穂高	490	甲府国際	492	柏崎	469
芳賀	482	鹿沼	489	藤岡	468	豊岡国際	471	諏訪湖	496	グリーンバレイ	497	新潟sp・三条	482
那須小川	484	鹿沼	490	草津	472	富士士	472	グラントージ好	501	甲斐駒	499	長岡	484
矢板	485	思い川東急	491	ルーデンス	475	富士チサン	473	長野	501	清春	502	松ヶ峯	486
南摩城	485	韋月・佐野	492	甘楽	476	富士宮	481	望月	502	昇仙峡	518	湯田上	487
下野	486	宇都宮	492	赤城国際	478	沼津	484	望月東急	504	富士川	529	日本海	488
板木	488	日光	497	伊香保国際	479	函南	484	長野国際	508	中央都留	535	紫雲	490
鬼怒川	493	鷹	497	太田双葉	479	大熱海国際	489	川中嶋	509	フォレスト	493	上越国際・十日町	495
大平台	494	唐沢	498	桐生	480	愛鷹	489	千曲高原	511	レイクビュー	495		
グレンピーカマ	495	都賀	499	美野原	482	南箱根	490	サニ一	513	小千谷	514		
ユーアイ	500	ロイヤル	500	プリンスランド	484	富士小山	497	ヴィラ蓼科	514	妙高	499		
広陵	500	塙原	500	上毛森林	484	菊川	498	あづみ野	520	下田城	499	石打後楽園	500
サンヒルズ	503	真名子	502	ベルエア	485	伊東	498	信州駒ヶ根	521	糸魚川	507		
足利	505	関東国際	502	沼田スプリングス	486	三島スプリングス	499	塙嶺	522	新津	509		
韋月・鹿沼	507	鶴	503	伊香保	488	天城にかつ	502	佐久平	523	新潟	511	妙高サンシャイン	505
黒磯	508	佐野	503	鳳凰	490	太陽	502	南長野	525				
あさひヶ丘	508	東宇都宮	507	月夜野	490	富士御殿場	504	松本	528				
ヒルクレスト	510	杉ノ郷	509	ロイヤルオーク	491	伊豆にらやま	506	豊科	529				
チサン黒羽	511	アローエース	514	群馬	493	御殿場	506	三井の森蓼科	548				
千成	512	板の木	521	勝義スプリングス	497	富士平原	509						
皆川城	514	鳳月	530	ノーザン群馬	510								
		新宇都宮	544	高崎K G	512								
大場宣明 (紫塙)	78	山崎頼一 (那須チサン)	75	山寺光雄 (藤岡)	73	加部嗣男 (東名)	71	馬場明 (長野)	73	池田公夫 (清春)	79	鈴木富士男 (松ヶ峯)	76
木村忠之 (ヒルクレスト)								河西康行 (諏訪湖)		中山省三 (甲斐駒)			
高橋廣 (チサン黒羽)	78							土屋学 (甲府国際)					
半田容一 (矢板)	73	斎藤裕一 (鹿沼)	74	大和田康夫 (草津)	71	室伏健二 (東名)	70	長里真次 (松本)	75	星野一 (グリーンバレイ)	72	松本重光 (フォレスト)	70

# 平成7年度 関東倶楽部対抗決勝競技成績表

6月26日(月) 於: 相模原ゴルフ・クラブ

## ●Aクラス メダリスト

高橋 久雄
東松山カントリークラブ 72(35:37)
●Bクラス メダリスト
杉山 稔
総武カントリークラブ 71(37:34)

## 1位 相模原ゴルフ・クラブ 得点458

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 小林辰夫	75	36	39
松岡元樹	80	42	38
沼田昌彦	77	39	38
B 越宋治郎	73	37	36
河本徳三朗	74	39	35
平本哲	79	39	40

(チーム平均ストローク=76.33)

## 2位 総武カントリークラブ 得点459

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 松尾吉夫	82	40	40
大林仁	76	36	40
清水博志	78	38	40
B 白井佑夫	77	36	41
杉山稔	71	37	34
平山裕基	75	38	37

(チーム平均ストローク=76.50)

## 3位 扶桑カントリー倶楽部 得点463

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 池田博一	75	40	35
入江義男	83	41	42
矢崎辰昭	74	37	37
B 松山信彦	80	39	41
日暮俊明	79	40	39
染谷鉄市	72	34	38

(チーム平均ストローク=77.17)

## 4位 東名カントリークラブ 得点463

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 伊藤僚秋	79	39	40
安藤功	78	40	38
加藤剛男	77	40	37
B 高橋和彦	76	36	40
高田安和	76	37	39
室伏健二	77	39	38

(チーム平均ストローク=77.17)

## 5位 袖ヶ浦カントリークラブ 得点466

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 鈴木軍治	75	38	37
相馬久	76	36	40
山野辺邦夫	74	37	37
B 倉石哲	84	42	42
中岡利助	84	45	39
阪田哲	73	35	38

(チーム平均ストローク=77.67)

## 6位 嵐山カントリークラブ 得点467

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 山崎長雄	79	36	43
齊藤昌俊	80	38	42
岡田光正	73	34	39
B 竹村昭雄	78	37	41
岡田光史	77	40	37

(チーム平均ストローク=77.83)

## 7位 東松山カントリークラブ 得点468

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 吉田正昭	80	42	38
高橋久雄	72	35	37
高橋佑吉	74	34	40
B 高橋徹	77	38	39
秋保一考	84	41	40

(チーム平均ストローク=78.00)

## 8位 新千葉カントリー倶楽部 得点469

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 岩森茂男	78	37	41
高橋土方	83	41	42
B 平山康則	80	40	40
秋保一考	79	37	42

(チーム平均ストローク=79.83)

## 14位 立川国際カントリー倶楽部 得点479

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 井上伯夫	78	37	41
高橋正一	77	39	38
B 平山本啓智	83	42	41
秋山尚記	82	42	40

(チーム平均ストローク=79.83)

## 15位 鹿沼カントリー倶楽部 得点483

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 倉田安栄	81	40	41
大山四郎	76	39	37
B 桜井延秋	79	39	40
室野歩	75	36	39

(チーム平均ストローク=78.17)

## 16位 諏訪湖カントリークラブ 得点483

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 中村清	73	36	37
田口喜三郎	77	39	38
B 富田清	83	41	42
平坂良雄	77	38	39

(チーム平均ストローク=80.50)

## 17位 豊岡国際カントリークラブ 得点484

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 志村一夫	76	38	38
反町清治	84	41	43
山寺吉雄	78	36	42
B 宮本清	78	38	40
林初男	81	41	40
小久保武夫	74	36	38

(チーム平均ストローク=78.50)

## 18位 富士カントリークラブ 得点484

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 関田孝	79	37	42
中谷泰教	83	38	45
高松英明	78	38	40
B 相田喜久夫	75	38	37
高安伸也	77	40	37
間口幸	82	43	43

(チーム平均ストローク=80.67)

## 19位 那須チサンカントリークラブ 得点484

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 今木幸雄	82	40	42
鈴木宏治	81	43	38
成田秀基	76	36	40
B 成田朋正	75	34	41
安藤勤	85	44	41
松尾太郎	70	40	45

(チーム平均ストローク=80.67)

## 20位 東名厚木カントリー倶楽部 得点486

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 新井克佑	89	44	45
岡本文雄	78	38	40
大場宣明	78	38	40
B 平山正好	80	40	40
佐藤仁	83	42	41
佐久間義	79	39	40

(チーム平均ストローク=80.67)

## 21位 関越ハイランドゴルフクラブ 得点487

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 井上伯夫	78	37	38
飯塚正男	77	39	38
高橋正一	91	44	47
B 平井辰春	83	42	41
山尚記	82	42	40

(チーム平均ストローク=81.17)

## 22位 スプリングフィールズゴルフクラブ 得点488

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 大庭眞男	85	43	42
西沢五郎	83	42	41
坂巻清	81	42	39
B 桜井敦	78	41	37
高橋茂人	84	39	45
井上延三	82	44	43

(チーム平均ストローク=80.50)

## 23位 那須小川ゴルフクラブ 得点488

氏名 合計 アウト イン 順位			
A 岡村光治	85	43	45
近藤一之	80	40	40
鈴木勝美	80	38	42
B 半田安則	82	41	41
大庭康夫	80		

## 分科委員会

平成7年度 第2回競技委員会  
正副委員長会議議事録

日 時 平成7年5月24日(水) 正午  
場 所 KGA会議室  
出席者 尾閔委員長、  
平山、新井、山田各副委員長、  
市川、織戸バイスキャップ、  
田村ルーリング担当委員、河  
西顧問

### — 討議及び決議事項 —

#### 1. 後期主催競技実施規定、各競技委員長および打合日について

事務局長より机上配布資料をもとに詳細な説明がなされ、関東シニア、関東ミッドシニア、関東オープン各競技について、原案どうり承認した。

また、次記の事項を確認した。

#### ● 関東オープン

しばらくの間は、海外ツアーサイド者および特別承認者の参加枠については、参加人数に上限を設けないこととした。

#### ● アンダーハンド競技

優勝者および予選通過者のタイの決定は、すべてマッチングカード方式で順位を決定することとした。使用ティグランドについて、原則的に男子はレギュラー・ティ、女子はレディース・ティを使用するが、距離についてはコースの難度を考慮し決定することとした。

#### 2. JGA第1回競技委員会決議事項について

3月22日に開催されたJGA第1回競技委員会決議事項について、尾閔委員長より詳細な説明がなされ、各項目について慎重審議の結果以下のと

うり決定し、全委員これを承認した。

#### ● 帯同キャディについて

関東オープン以外の競技の帯同キャディは認めないとした。

#### ● 関東グランドシニアについて

日本グランドシニアは、来年度より36ホール競技となるが、関東グランドシニアは従来どうり18ホール競技とした。

#### ● KGA後援競技について

競技内容のチェックと委員の派遣について、一定のマニュアルを作成し、内容の充実を計ることとした。

#### ● 日本シニアオープン

本年度シニアオープンは、茨城県の北浦ゴルフ俱楽部で開催されることが決定されたが、その競技運営についてKGA競技委員会に協力の方の要請がなされた。

#### ● ソフトスパイクについて

各委員が実用し検証報告することとした。

#### 3. KGA主催競技無断欠席者について

関東グランドシニア、関東アマ予選第5、第6ブロックに無断欠席をした3選手について、慎重審議の結果、規定どおり、今年度KGA主催競技ならびに来年度同一競技の出場を停止することとした。

#### 4. KGA主催競技のギャラリーのコース内立ち入りについて

事務局長より詳細な説明がなされ、全委員これを確認した。

「決勝競技については、コース内の事故等については、主催者が責任を負わぬことを告知した上で、ギャラリーのコース立ち入りを認める」ととした。

#### 5. 平成8年度以降の関東オープン開催方式について

尾閔委員長より詳細な説明の後、各委員活発な意見交換がなされた後、次記の確認にいたった。

「競技の継続を含め、開催方式の抜本的見直しを、オープン準備委員会、常務理事会、理事会に一任することとした。」

#### 6. 日本ミッドアマ開催について

尾閔委員長より以下の説明提案がなされ、全委員これを承認した。「JGAは、平成8年度以降に同競技開催を決定しているが、各地区連盟において、

1. 各地区連盟毎に同競技を開催するか、  
2. 東西南地区にて開催するか、  
を検討中である。

KGAとしては、第2案にて開催したい旨をJGAに提案する。」

### 平成7年度 第2回コース・レート 委員会議事録

日 時 平成7年5月18日(木) 正午

場 所 KGA 会議室

出席者 新井委員長、  
岡田副委員長、  
松岡、生田、中川、大久保、  
阪田、和田、吉田各委員

### — 討議及び決議事項 —

#### 1. 那須小川ゴルフクラブ以下6俱楽部のコース・レートについて、机上配布の資料をもとに次記のように決定した。

##### (1) 那須小川ゴルフクラブ

## 分科委員会

西コース	バック・ティ	72.3	(バック・ティの机上査定)
ペントメイningリーン	レギュラー・ティ	70.7	2. 5月18日現在申請中のロイヤルオ
バック・ティ	フロント・ティ	69.4	ークカントリー倶楽部以下5倶楽部
レギュラー・ティ	コーライグリーン	69.1	について、査定日を以下のように決
フロント・ティ	バック・ティ	67.2	定した。
ペントサブグリーン	レギュラー・ティ	69.5	ナリタゴルフコース 6月20日(火)
バック・ティ	フロント・ティ	69.8	江戸崎カントリー倶楽部 7月 1日(土)
レギュラー・ティ	(3) 富士カントリー大多喜城倶楽部	67.1	川越グリーンクロス 8月 4日(金)
フロント・ティ	東・中	65.5	富貴ゴルフ倶楽部 8月29日(火)
東コース	ペントグリーン		ロイヤルオークカントリー倶楽部 10月 2日(月)
ペントメイningリーン	バック・ティ	71.2	
バック・ティ	レギュラー・ティ	69.0	
レギュラー・ティ	フロント・ティ	66.8	
フロント・ティ	中・西	68.5	
ペントサブグリーン	ペントグリーン		
バック・ティ	バック・ティ	71.3	
レギュラー・ティ	レギュラー・ティ	68.8	
フロント・ティ	フロント・ティ	67.0	
(2) 東ノ宮カントリー倶楽部	西・東		
さつき・あおい	ペントグリーン		
ペントグリーン	バック・ティ	70.8	
バック・ティ	レギュラー・ティ	68.9	
レギュラー・ティ	フロント・ティ	66.9	
フロント・ティ	(4) 富士カントリー市原倶楽部	70.2	
コーライグリーン	ペントグリーン		
バック・ティ	バック・ティ	72.3	
レギュラー・ティ	レギュラー・ティ	69.9	
フロント・ティ	フロント・ティ	67.9	
あおい・おばな	(5) プレスカントリークラブ		
ペントグリーン	ペントグリーン		
バック・ティ	バック・ティ	71.7	
レギュラー・ティ	レギュラー・ティ	70.0	
フロント・ティ	フロント・ティ	68.8	
コーライグリーン	(6) 水戸グリーンカントリークラブ		
バック・ティ	山方コース	72.3	
レギュラー・ティ	ペントグリーン	69.7	
フロント・ティ	バック・ティ	68.5	
コーライグリーン	レギュラー・ティ	72.2	
バック・ティ	フロント・ティ	67.9	
レギュラー・ティ	フロント・ティ	66.9	
フロント・ティ	山方コース	67.0	
ペントグリーン	ペントグリーン	66.7	
おばな・さつき	レギュラー・ティ	69.7	
ペントグリーン	フロント・ティ	68.2	

平成7年度 第1回月例競技委員会  
議事録

日 時 平成7年4月26日(水) 12時30分

場 所 KGA会議室

出席者 斎藤委員長、  
平山、市川、小池、松井、額賀、桜井各委員、  
学生連盟委員

### — 討議及び決議事項 —

#### 1. 4月度競技報告及び総括

平山委員より下記の報告及び総括がなされた。

「天候は午後になって風が強くなったものの、全体的に好天に恵まれた一日であった。プレーの進行は大変速く、男子・女子共、順調に競技を終了することができた。毎回プレーの迅速化について問題となるが、当委員会として指導の成果があったと思われる。ミーティングではKGAジュニア育成委員長の紅露昭通氏よりジュニアの育成について話がなされた。」

エントリー 数他は以下のとおり  
開催日 平成7年4月21日(金)  
コース 筑波カントリークラブ

# 分科委員会

エントリー  
174名（男子115名、女子59名）  
欠席者数  
事前連絡6名（男子5名、女子1名）  
当日連絡1名（女子）  
無断欠席 0名  
出場者数  
167名（男子110名、女子57名）  
科罰者 1名  
ミーティング欠席 0名  
失格者 0名  
棄権者 0名  
次回プレオフ なし

## 2. 6月出場資格者確認の件

Hdcp処理5月末の為、次回委員会にて報告

## 3. 6月のテーマ

- ボールマークの修復の徹底
- ティ・グラウンド前方を横切らない

## 4. その他

競技のエントリーについて  
佐藤事務局長より、最近月例競技に限らず、各競技において締切後のエントリーやダブルエントリー等が非常に多く目立つ様になつた事が報告された。申し込み窓口は俱楽部ではあるものの、最終的責任は選手本人にあり、注意を喚起することとした。

### 平成7年度 第2回月例競技委員会 議事録

日 時 平成7年6月7日(水) 12時30分  
場 所 KGA会議室  
出席者 斎藤委員長、  
山崎副委員長、  
平山、小池、松井、額賀、岡野、桜井、嶋田各委員、

## 学生連盟委員

### — 討議及び決議事項 —

#### 1. 6月度競技報告及び総括

山崎副委員長より下記の報告及び総括がなされた。

「競技前日からの悪天候が心配されたが、当日は好天に恵まれた。早朝より、従業員の方々にボールマークの修復を行っていただいた為、グリーンコンディションは最高の状態であった。最近の道具の進化からか、決して短くない距離にもかかわらず、男子・女子共に好スコアが続出した」。

### 平成7年度 第1回広報委員会 議事録

日 時 平成7年3月7日(火) 午後4時

場 所 KGA会議室

出席者 内田委員長、  
宮元副委員長、  
舟橋、片山、塙田、杉山、山

田、吉川各委員

### — 討議及び決議事項 —

#### 1. 広報委員会活動方針

内田委員長より次記の方針がなされ、これを承認した。

●細川理事長より提案し、通常総会において承認された「今年度活動方針」に基づき広報活動を行っていく。

具体的には、マスコミ各社と連繋を保ち、PR活動に一層の力を入れたい。また、今年度は各都県にアマチュアゴルフ協会（連盟）が組織されJGA、KGAに加盟する見込みなので、これまでの会員俱楽部はもちろん一般ゴルファーを対象

# 分科委員会

としたPR活動も必要となる。

## 2. KGAニュース No.50企画案

事務局案を承認した。

また、KGA活動を紹介する連載記事を企画する。その第一弾として、KGAの在り方を問う座談会を松浦副理事長、小宮山特別委員長、内田広報委員長の出席のもとに行う。

## 3. 今年度競技取材担当委員について

別紙のように各主催競技等の担当を決定した。

●競技はグランドシニア、女子、アマ、俱楽部対抗を取材する。

各競技とも視点を変え、マンネリ化をなくす内容としたい。

●コースレートを取り上げ、ボランティア活動としての委員の真の姿を紹介する。

●「KGAってなんだろう」第二号は、体協問題をとりあげたい。

格者の更新時機を来年に控えており、方法として、通信教育とレポート提出にて変更を行うべく検討している。

1級については、明年度に実施するが、面接、論文、実地、管理会計などかなり高度な審査となるだろう。したがって、合格者も2級資格者（800名）の10%位が予想される。

## 4. 東日本グリーン研究所巡回指導について

古賀委員長より、次記提案がなされ、これを承認した。

関東地区を10ブロックに分けて、適宜、巡回指導を行っているが、これをKGAと共に実行したい。また、加盟俱楽部及びグリーン研究所会員俱楽部だけでなく、広く参加を呼びかけ、出席受講を認める。

### 平成7年度 第1回グリーン委員会 議事録

日 時 平成7年7月3日(月) 16時40分

場 所 東京ガーデンパレス桂の間

出席者 古賀委員長、

小宮山副委員長、

相澤、海老原、福山、萩原、

平林、川又、古谷野、坂本、

峰 各委員

### — 討議及び決議事項 —

## 1. 第31回KGA春季グリーン研究講習会総括

事務局より詳細な説明の後、各委員から次記総括がなされた。

座談会「KGAってなんだろう」は、KGAの抱えている問題がわかりやすく、多くの問題提起がなされており充実した貢献であった。各俱楽部関係者にも反響をよんでいる。今後もテーマを変え連載したい。

ジュニア委員長のインタビューは、「関東ジュニア選手権競技」が単独主催になった経緯などがわかりやすかった。写真もジュニアの生き生きした活動がよく表現されている。

## 2. KGAニュース No.51編集企画

事務局案が了承された。

### 平成7年度 第2回コース選定委員会 議事録

日 時 平成7年6月2日(金) 正午

場 所 KGA会議室

出席者 尾閔委員長、

田辺副委員長、

北村、岡田、阪田、高木各委員

### — 討議及び決議事項 —

## 1. 平成8年度以降のKGA・JGA主催競技コース選定について

尾閔委員長より机上配布資料とともに、平成8年度以降のKGA・JGA主催競技開催俱楽部選定について詳細な説明がなされ、別紙のとおり競技開催候補俱楽部を選定した。

なお、その交渉については事務局が行うこととした。

## 月例競技成績表

〔平成7年度4月月例〕 4月21日(金) 筑波カントリークラブ

〔男子〕		順位	氏名	俱楽部	アウト	イン	合計
1	根本 太満	水 戸	37	35	72		
2	平山 裕基	総 武	34	39	73		
2	室伏 健二	東 名	36	37	73		
4	加藤 一彦	千 葉	37	37	74		
4	和田 博	東京五日市	36	38	74		

コースレート72.0

〔女子〕		順位	氏名	俱楽部	アウト	イン	合計
1	渡辺 恵子	高 根	36	38	74		
2	箱田 美樹	甘 葉	40	41	81		
2	中野 陽子	新 千 葉	40	41	81		
2	加藤 勝栄	相 模 原	41	40	81		

コースレート69.8

〔平成7年度6月月例〕 5月30日(火) 船橋カントリークラブ

〔男子〕		順位	氏名	俱楽部	アウト	イン	合計
1	藤崎 和典	富士・笠間	35	33	68		
2	今井 克宗	か ず さ	33	36	69		
2	阪田 哲男	袖 ケ 浦	35	34	69		
2	加藤 一彦	千 葉	35	34	69		
5	中野 正義	霞ヶ浦出島	35	36	71		
5	沢田 信弘	長 南	37	34	71		
5	石井 直人	奏 野	36	35	71		

コースレート72.2

〔女子〕		順位	氏名	俱楽部	アウト	イン	合計
1	中野 陽子	新 千 葉	38	36	74		
2	小池 永子	宇都宮国際	39	37	76		
3	渡辺 恵子	高 根	41	36	77		

コースレート70.4

## お知らせ

関東ゴルフ連盟「加盟俱楽部便覧」の変更事項は、次記のとおりです。訂正加筆をお願いいたします。

### 俱楽部名

- (新) カバヤゴルフクラブ (旧) 新茨城カントリークラブ
- ノーザンカントリークラブ赤城ゴルフ場
- ノーザンカントリークラブ上毛ゴルフ場  
(旧) ノーザンカントリークラブ群馬が上記2俱楽部として入会しました。

### 理事長

- サンフィールドゴルフクラブ  
(新) 横山精一郎 (旧) 武村 正義

- 烏山城カントリークラブ  
(新) 竹田 昭夫 (旧) 田村 三作

- ジェイ・セレモカントリークラブ  
(新) 三宅 和助 (旧) 久村 謙道

- フレンドシップカントリークラブ  
(新) 村山 政志 (旧) 村山 宗一

- 小金井カントリー俱楽部  
(新) 中村 金夫 (旧) 堀 正彦(代行)

- 八王子カントリークラブ  
(新) 近藤 鳩三 (旧) 豊田 茂

- 湯河原カントリー俱楽部  
(新) 岩宮 浩(理事長代行より理事長へ)

- 南富士カントリー俱楽部  
(新) 井田 哲生 (旧) 大石 幸一

### 俱楽部代表者

- 農科カントリー俱楽部  
(新) 笠原 貞行 (旧) 堀内 已次

- サンフィールドゴルフクラブ  
(新) 横山精一郎 (旧) 武村 正義

- 烏山城カントリークラブ  
(新) 竹田 昭夫 (旧) 田村 三作

- ジェイ・セレモカントリークラブ  
(新) 任川 昭一 (旧) 川端 安次

- 千代田カントリークラブ  
(新) 中沢 劍 (新) 柿本 滌

- フレンドシップカントリークラブ  
(新) 村山 宗一 (旧) 田口 栄

- 大榮カントリー俱楽部  
(新) 喜多 一郎 (旧) 田口 栄

- 八王子カントリークラブ  
(新) 近藤 鳩三 (旧) 豊田 茂

- 湯河原カントリー俱楽部  
(新) 原 延章 (旧) 加藤 寿夫

- 南富士カントリー俱楽部  
(新) 井田 哲生 (旧) 大石 幸一

### 支配人

- ヴィラ夢科カントリー俱楽部  
(新) 小林 健吉 (旧) 柳沢 四郎

- フォレストカントリークラブ三井の森  
(新) 中川 忠三 (総支配人) (旧) 大森 捷夫

- 清春カントリー俱楽部  
(新) 清山 弘昌 (旧) 佐々木 豊

- アロースコールフクラス  
(新) 内山 吉隆 (旧) 和田 光雄

- 黒磯カントリー俱楽部  
(新) 益子 敏次 (旧) 関谷 貞

- ニュー・セント・アンドリュースゴルフクラブジャパン  
(新) 田代 憲司 (旧) 上原 正幸

- カントリークラブ・ザ・レイクス  
(新) 町島 正敏 (旧) 中村 和司

- 鎌ヶ谷カントリークラブ  
(新) 岩田六四四 (総支配人) (旧) 井上 英一

- 京葉国際カントリー俱楽部  
(新) 桶葉 正昭 (支配人代行) (旧) 田中 節子(謹題)

- 袖ヶ浦カントリークラブ  
(新) 佐藤 時雄 (旧) 小松 幹司

### 東京事務所

- 甘楽カントリークラブ・広陵カントリークラブ  
〒101 千代田区外神田3-8-11 YMDビル1F  
(TEL、FAXは変更なし)

- ジェイ・セレモカントリークラブ  
〒144 大田区蒲田3-28-8 JSKYビル4F  
(TEL 03-3733-4444 FAX 03-3733-2052)

- 御殿場ゴルフ俱楽部  
(旧正) 〒103 中央区日本橋兜町20-5 八千代ビル  
FAX 03-3639-0610

### 会社名

- レイクビューゴルフ  
(新) (株)レイクビュー

### HDCP

- ルーセントカントリークラブ (新)

- 春日居ゴルフ俱楽部 (新)

- 那須国際カントリークラブ (新)

- セント・フィールズゴルフクラブ (新)

### 休場日

- ジェイ・セレモカントリークラブ  
無休

平成7年8月1日発行 KGAニュース No.51  
発行所／関東ゴルフ連盟 東京都千代田区麹町2-12 CTS麹町ビル8F TEL.(03) 5275-0391  
発行人／細川謙 貢 編集／広報委員会